



三陸の語り部らが集まった座談会

三陸の語り部ら 今後の課題共有

ホテル観洋で座談会

東日本大震災から間もなく6年。急速に風化が進む中、さまざまな感情を胸に被災体験を伝える語り部などが集まる「三陸語り部座談会」が11月23日、宮城県南三陸町の南三陸ホテル観洋で開かれた。震災の教訓を語り継ぐための課題などについて意見交換した。

宮城県と岩手県から語り部21人のほか、大学教

座談会では、アドバイザーに民俗研究家の結城登美雄氏、進行役に大阪府立大学研究員の山地久美子氏を招き、語り部らが復興の進捗や地域づくり、震災遺構の状況などについて報告し、今後の課題を提起した。

参加者からは、「被災地をもっと見て、子どもたちの防災教育に役立ててもらいたい」「語り部の後継者を育成し、津波の怖さを後世に伝えたい」などの意見が出された。

来年1月29日に「東北

2016年12月3日(土)

【観光経済新聞】